

彼等は泥酔して出席し小杉が会長とならんとする野望を裏切られ落選するや議  
巨妨害一聚集出来ぬが故に組合幹部池君の議事進行の動議を提出すこと  
小杉の兇方大仲の者「ナイキを撲つて」云々、つて来たので議場は大混乱となつた。此  
時職長小杉は自ら兇方と指揮し「池がナクラレたら組合員はあの通り」云々、つて来たので  
の「テメー等は何の株だ双物を以て罵ら」云々、喧嘩は出来「ネ」云々と吐きつけて自ら組合員  
撲りおれ廻つたのである。然し此の場は議長等の仲裁が事なくすんたが翌二十五日池君が  
傷の出るや兇方大仲と昨日なぐりなぐりなぐり論中「兇方酒井が十二寸の金銃を持  
てや池君のすきををらつて石向に切りつけ深き骨髄と徹し「長々三寸の大負傷をせしめ全  
面血みどろになつた。工場内け之が為で大掛廻となり酒井も負傷する所となつた。吾等  
細心の調査に依り今回の大事件が悉く小杉職長の指揮する事と破信し「斯く不  
漢と職長とすは我等の一大恥辱と」彼れは辞性を迫り会社。処分を要求したものである

友人池君の大負傷「急報」接し北病院に馳せつけ近藤君は全面はれぬが  
苦肉せし親友池のあはれなる姿を目撃し義憤。極手術立会に伴はれた小杉  
なぐりつけた。小杉は深く前非と悔ひ只々あやまつて居た。此時は小杉は何等負傷は  
居なかつた。小杉は深く前非と悔ひ只々あやまつて居た。此時は小杉は何等負傷は  
に拘引された。小杉は翌日繃帯を取つて出勤した。同じく近藤君は小杉傷害罪でヤ  
たの心算である。近藤君と相前後して前々小杉の兇方に撲られ右手に負傷せし木村  
豊田。両君を拘引留置されて「まつた。而し小杉も其の兇方と唯一人留置された者はない。

厚顔無恥の小杉は此の大事件の者の責任者として深く謹慎すべきにも不拘  
世者工傷で一人くと呼びつけ「本筋は俺も排斥するなら」云々、俺れにも考案ある  
とおどつつけ又双等の様と見る様事局へやられたら「帰つて来たもの云々」と宣傳し  
し「其の時我等の友人近藤君外二名はまた敢言案の居たすも不拘、既に彼が事  
前此之を知つて居た事は前述べの事情と照合し「我等は」云々の疑念を懐き「た  
し」云々、又當日兇方田中と木村豊田の両君宅に使して「もう帰らまじよ」云々、自分事務所  
下と心配せる家族に「おれを抱かぬ」云々、等卑劣極度態度である。会社に於ては既に  
非行不徳は「然ら」云々、不拘、調え「事よせ又何の為か」云々、案が三名の者を包罪し「た  
し」云々、後「四君すべ」云々、と「言を左右」し「二十九日追遷」し「やつと今日の解答は」云々、小杉の行  
為は「不都合であるが現職の儘」と「將來不都合のなき」様注意することを「こ  
に不滿意」し「不得要煩」なものである。

我等は殊更に他人を排斥せんとするものではない。小杉の控へ日本無線に就職以來  
又今回の大事件と惹起し「其後不謹慎なる態度より」云々の解答に依つて「不  
来事なきを得る」である。我等は非常なる不幸を甘うすと同時は会社と雖も  
信は持ち得ぬと云つて居る。会社は「何等の事情あり」と云ふへ斯く「厚顔無恥」  
社会を踏む危険人物も其怪し「是」云々、再「今四」云々、不祥事等の勃発した。時は合  
社社会に「何と謝罪する」のである。か、吾等は心地上く「芳儀」益々能  
「吾等」の幸福と会社の発展とを希ふに共に「盡力」すべし。不祥